

令和 8 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（概要）（案）

1. 令和 8 年度全国学力・学習状況調査の概要

①調査内容

- ・教科に関する調査（国語、算数・数学、英語※）
- ・質問調査（児童生徒質問調査※、学校質問調査※） ※はオンラインで実施

②調査対象

国・公・私立学校の小学校 6 年生・中学校 3 年生

③実施予定日

調査項目	日程	
	通常実施	後日実施
教科調査 （中学校英語以外）	<u>4/23（木）（調査実施日）</u>	4/24（金）～30（木）
教科に関する調査 （中学校英語） 「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」	<u>4/20（月）～23（木）</u> 予備日： <u>4/24（金）</u> ※ 同じ日に、英語「読むこと」「書くこと」 を 50 分程度、英語「聞くこと」と生 徒質問調査を 50 分程度で実施	<u>4/27（月）～5/1（金）</u> （学校外でオンライン 実施可）
教科に関する調査 （中学校英語） 「話すこと」	当日実施： <u>4/24（金）・27（月）</u> （全国から 500 校抽出） 期間内実施： <u>4/28（火）～5/29（金）</u> （期間内実施に限り、学校外でオンライン実施可）	
児童質問調査	<u>4/24（金）～5/8（金）</u>	<u>調査実施日翌日～ 5/8（金）</u> （学校外でオンライン 実施可）
生徒質問調査	<u>4/20（月）～23（木）</u> 予備日： <u>4/24（金）</u>	<u>4/27（月）～5/8（金）</u> （学校外でオンライン 実施可）
学校質問調査	<u>4/1（水）～17（金）</u>	—

- ①英語及び児童生徒質問の調査実施日は、通常実施の期間から各学校の希望を踏まえて事前に指定する日とする。
- ②調査の実施日に、調査を実施できないやむを得ない事情等がある学校や、実施時のトラブルや欠席等により調査を実施できなかった生徒については、従来から教育委員会や学校等の判断により、後日実施期間に調査を実施することができる。
- ③後日実施（英語（話すこと）にあっては期間内実施）の期間は、登校困難、欠席、技術的トラブル等の事情に応じ、**学校外（自宅、院内学級、教育支援センター等）**でオンライン実施可。

2. 令和8年度調査に関する実施要領の主な特徴

- 中学校英語に関する調査を CBT で実施し、調査結果を IRT スコア等で示すこと。
- CBT・IRT の意義を最大限反映させ、児童生徒一人一人の学力・学習状況が細やかに分かる結果の示し方とすること。
- 引き続き、障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮を可能とすること。
- 英語（「話すこと」を除く。）及び児童生徒質問調査については、調査実施日（予備日を含む。）にあっては学校での実施とし、後日実施期間にあっては学校外での実施も可能とすること。英語「話すこと」については、当日実施校にあっては学校での実施とし、期間内実施校にあっては学校外での実施も可能とすること。
- 「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和6年12月23日付け6文科教第1467号文部科学事務次官通知別紙。）で別に定めることとしていた、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和7年6月6日付け7文科教第507号文部科学省総合教育政策局長通知）における文部科学省による調査結果の公表の取扱い等について、本実施要領に定めること。

3. 英語の調査に関する留意事項

（時間割モデル関係）

- 3技能の調査は、「読むこと」「書くこと」で50分程度、「聞くこと」及び生徒質問調査で50分程度とする。「聞くこと」調査では、ヘッドセットのほか、授業等で利用する使い慣れたイヤホンも使用可。ヘッドセット・イヤホンの保有状況に応じてグループを分ける。
- 「話すこと」調査は20分程度とし、ヘッドセットを使用する。ヘッドセット、ネットワーク環境等の状況に応じてグループを分け、分散しての着席で実施する。

（結果返却・公表関係）

- 学校・教育委員会に対する結果返却は、7月（3技能）と秋（話すこと）の2段階で行うことを想定。
- 国による結果公表は、7月の全国データについては、「話すこと」当日実施校500校の結果により、4技能全体の分析結果を公表し、秋の都道府県・指定都市別データについては、4技能総合のIRTスコア平均やIRTバンドの分布を公表する方向で検討。